

技術・家庭科[家庭分野]学習指導案

指導者 浦 上 千 歳

日 時 平成27年11月21日（土）第1校時（10：00～10：50）
年 組 中学校第2学年2組（後半グループ） 計20名（男子9名，女子11名）
場 所 中学校家庭科室
単 元 モンの子どもたちに笑顔を運ぶくみボタンゲーム作り

単元について

本題材は、領域 C「衣生活・住生活と自立」と領域 A「家族・家庭と子どもの成長」を融合し、さらに生活の課題と実践へとつなげる内容としている。また、本校の目標を踏まえて、家庭科に環境教育が位置づけられた平成元年より ESD（持続可能な開発のための教育）の充実を基盤とした授業提案である。昨年度は、文部科学省の日本ユネスコ国内委員会が ESD の実施における観点としてあげている『他人との関係性，社会との関係性，自然環境との関係性を認識し，「かかわり」，「つながり」を尊重できる個人を育むこと』をめざして，作品製作のゴールを完成ではなく，活用することに重点をおき，製作過程においても，対象者を意識したものづくりを行う授業を提案した。今年度は，ESD の実践に向けて，家庭科教育の特徴の1つである生活者・消費者としての視点を核として，「多様性」「協働性」「主体性」を育む課題解決場面の設定を意識した。世界共通に，生活に欠かすことができない布を教材として，自国の衣生活に関わる歴史を学習し，発展途上国の人たちの生活を知ること，また，自国だけでなく他国の子どもたちの存在を意識させることで，世界や未来の人々のことを考える想像力を刺激する。これらの一連の授業の中で課題を発見し，さらに解決に向けて行動できる場面を設定した授業を提案する。

これまで生徒は，1年生で「衣生活と自立」の領域で衣服の選択と手入れについて学んできた。『衣服の選択』では，目的に応じた着用・計画的な活用について，また，手入れでは材料や状態に応じた洗濯を中心に学んできた。また，2年生になってからは，衣服の構成（和服と洋服の構成の違い）を学び，現在ハーフパンツの製作に取り組んでいる。また，「家族・家庭と子どもの成長」の領域では，近接環境である家族とのかかわりや家庭での役割を学んだだけで，子どもの成長についての学習は，まだ行っていない。生徒の布に関する知識は大変乏しく，衣生活における管理を保護者任せにしている生徒が多く，あまり関心もない。他国の情報については，生活のあらゆる場面で得ており，発展途上国の人たちの生活について知っている，自分たちと関わりがあると答えた生徒は4割である。また，発展途上国の子どもたちがどのような教育を受けているか知っている，自分たちと関わりがあると答えた生徒は2割程度であった。

したがって指導に関しては，生徒の知識が乏しい衣服を構成する布に関する学習をまず行う。布の学習では，生徒の興味関心を高めるため，衣生活の歴史を軸にして，布の特徴を理解させるようにした。次に，日本だけでなく世界においても，布は人々の生活を支えてきたことを藍染めの学習を通して気づかせたい。また，発展途上国として日本と共通の伝統文化を持つモン族を紹介し，特にそこで生活する子どもたちに焦点を当て，映像資料を活用して，日本の子どもと比較させながらモン族に対する理解を深めさせたい。自国の生活・文化の理解，そして他国の生活・文化の理解をした上で，これまでの先輩たちが行ってきたモン族の子どもたちに絵本を贈る活動や，発展途上国の子どもたちにいろいろな取り組みをしている人たちを紹介して，自分たちの感じた思いを形にする意欲につなげたい。実際には，生徒が感じた，”発展途上国の子どもたちに教育が必要との思いを布を使ったおもちゃ作りにつなげる。最終的には，できあがった布のおもちゃを，モン族の村の保育士さんに送り，子どもの教育に生かしてもらえることを目指す。

指導目標

1. 日本の衣生活の歴史を振り返る中で、布の特徴を理解しながら、自国文化の理解を深めるようにする。
2. 他国文化（そこに住む人たちも含む）への理解を深め、関わろうとする主体性を養えるようにする。
3. 発展途上国の子どもたちにとっての課題を発見し、解決のために行動できるようにする。

指導計画（全8時間）

1. 私たちを取り巻く布の歴史 ----- 1時間
2. 布は世界をつなぐ ----- 1時間
3. 全国に見られる「にっぽんの布」 ----- 1時間
4. モンの子どもたちに必要なもの・こと ----- 1時間
5. 私たちの思いを形に（くるみボタンゲームの製作） ----- 3時間
6. モンの子どもたちに笑顔を運ぶために ----- 1時間（本時）

本時の目標

くるみボタンを使ったおもちゃとレシピカードを通して、モン族の保育士さんに自分たちの思いを伝えることができる。

「グローバル時代をきりひらく資質・能力」の視点

くるみボタンゲームの製作を通して、生徒たちと途上国の子どもたちを結ぶ家庭科の可能性をさぐる。モン族の子どもたちを身近に感じるようになることで主体性を生み、自国と違う伝統文化や環境について理解を深めることで多様性を養い、自分たちの思いを形にする活動を通して協働性が育つと考えた。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 導入（10分）</p> <p>□これまでの学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none">・布の特徴や性質と衣服の歴史・モン族について・日本の子どもたちとモン族の子どもたちについて <p>取り巻く環境から 子どもたちの様子から 遊びの視点から</p> <ul style="list-style-type: none">・遊んで学べるおもちゃの製作 （くるみボタンを使ったおもちゃ）	<p>○授業を映像（アクティブボードなど）で振り返ったり、ワークシートを読み直すなどして、これまでの学習を想起させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">モンの保育園の保育士さんたちに伝えよう</div>	
<p>2. 展開（35分）</p> <p>□おもちゃのレシピカード作り</p> <p>【8つ切り画用紙1枚】</p>	<p>○グループ内で、分担して作業させる。</p> <p>○前時に、表紙の下絵は完成させておく。</p>

<p>表：表紙絵を作る （端切れ布を使用して貼り絵にする）</p> <p>中：おもちゃの作り方と遊び方をまとめる。</p> <p>□おもちゃとレシピカードの交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループのおもちゃを評価する。 ・コメントを交流する。 <p>3. まとめ（5分）</p> <p>□自分たちが製作したおもちゃとレシピカードについて、振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○製作の様子を写真撮影させておき、レシピカード作りに使用できるようにする。 ○モン族の保育園の先生に自分たちの思いが伝わるように、工夫をさせるようにする。 ○モン族の保育士さんの立場に立って、評価させるようにする。 ○モン族の子どもたちがおもちゃを使って遊ぶ様子を想像して、評価させるようにする。 ○レシピに意見を書いた付箋を貼らせる。 <p>◆自分たちの思いを他グループの人に伝えることができているか。</p> <p>◆子どもたちを笑顔にすることができるおもちゃになっているか。</p> <p style="text-align: right;">【生活を工夫し創造する能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他グループからのコメントを読み、自分たちの思いがどの程度伝わったのか、自分たちのおもちゃとレシピを評価させる。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献

- お茶の水大学子ども発達教育研究センター編. 『幼児教育ハンドブック』（日本語版）. 2004. pp. 197-212.
- 文部科学省. 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭』. 教育図書. 2008.
- 浦上千歳・柴静子「生活文化力を培う家庭科の授業づくり—伝統・文化の視点を取り入れた授業を通して—」. 『広島大学附属東雲中学校研究紀要 中学教育』第44集. 2012. pp. 88-94.
- 浦上千歳・柴静子「生活文化力を培う家庭科の授業づくり(2)—モン族の子どもたちに贈るジャパンブルーの絵本バッグの製作を通して—」. 『広島大学附属東雲中学校研究紀要 中学教育』第45集. 2013. pp. 89-95.
- 浦上千歳・柴静子「子どもたちに贈る布絵本の製作を通してグローバルな資質の育成をめざす「技術・家庭」の授業開発」. 『広島大学附属東雲中学校研究紀要 中学教育』第46集. 2014. pp. 79-86.
- 佐伯昭夫氏によって、昨年の生徒が製作した絵本がモン族の保育園に届けられ、そこで園児に読み聞かせしていただいているビデオ映像及び写真
- 田村学：授業を磨く，東洋館出版社